

2026年度 市立函館高等学校 シラバス

教科	科目	単位数	年次・コース	教科担任			
国語	古典探究α	3	3年次	齊藤裕子・三鹿裕明			
選択するときの条件	3年次共通履修 (文系で医療倫理を選択しない生徒、理系で数Ⅲ＋数Cまたは医療倫理を選択しない生徒)						
使用教科書	(第一学習社) 高等学校 精選 古典探究	使用副教材	(尚文出版) 「新明説漢文」 (尚文出版) 「核心古文単語351版」 (数研出版) 「プレミアムカラー国語便覧」				
科目の目標			道徳教育のねらい				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、将来にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることを目指す。			人間と人間との関係の中で、互いの立場や考え方を尊重し合えるような、道徳的心情や道徳的判断力を養う。				
学習活動内容		育てたい6つの力(資質・能力)					
		1	2	3	4	5	6
		主体的 学習力	基礎力	思考・ 分析力	発信・ 表現力	自己認知 ・協働力	計画 実行力
1	【古文】随想を読む	○	◎		○		
2	【古文】日記文学を読む		◎			○	○
3	【古文】物語を読む	○	○	◎			
4	【古文】歴史物語を読む		○	◎			○
5	【古文】説話を読む			○	◎	○	
6	【古文】評論を読む			◎	○	○	
7	【古文】近世随筆を読む	◎				○	○
8	【古文】近世小説を読む	◎		○			○
9	【漢文】逸話を読む	○	◎		○		
10	【漢文】小説を読む		◎		○	○	
11	【漢文】史伝を読む		○	◎		○	
12	【漢文】文章を読む		○	◎			○
13	【漢文】漢詩を読む	◎		○	○		
14							
15							
16							
17							
18							
24							
評価の観点	知識・技能	思考 判断 表現		主体的に学ぶ態度			
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
評価の方法	次の3観点において、各資料をもとに総合的に評価し、5段階の評定をする。また、各観点については、到達度により総合的に評価し、A・B・Cの3段階で評価する。						
	A: 目標に対する到達度が70%～100%		B: 目標に対する到達度が45%～69%		C: 目標に対する到達度が0%～44%		
	教科・科目における各観点	授業での取組	課題への取組		提出物	考査	
	知識・技能	◎	○			◎	
思考・判断・表現	○	◎		○	◎		
主体的に学ぶ態度	○			◎			

古典探究α 授業計画

授 業 計 画					実施状況		
月 (時数)	単元・考査等 (配当時数)	学習のねらい	学習内容 (配当時間)	単元 実施 時数	実施反省		
前 期	4 (10)	随筆 (二) 枕草子 ・二月つごもり頃に (6)	・読解に必要な知識を確認する。	・出来事と登場人物の心情との関係性を把握するよう努める。	1		
	5 (12)	物語 (二) 大鏡 ・弓争ひ (9)	・内容理解のモチベーションを高める。				
	6 (11)	項羽と劉邦 ・四面楚歌 (7)	・読解に必要な知識を確認し、文章の構成や主題を考察する力を養う。	前期中間考査 (1)			
	7 (6)	物語 (二) 源氏物語 ・若紫 (10)	・日本を代表する作品を深く知るために、前後のストーリーなどにも触れていく。	・人物関係の理解のための敬語、心情把握のための和歌の読解などをする。			
	8 (6)	日記 (一) 蜻蛉日記 ・うつろひたる菊 (6)	・平安時代の習俗などにも触れ、古典文学の理解を深めさせる。	・近体詩のきまりなどを再確認しながら、句法や語彙の知識を拡げる。			
	9 (10)	漢詩の鑑賞 ・中国の詩 (6)	・漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々の自然や人事に対する思いに触れる。				前期期末考査 (1)
	10 (12)	日記 (一) 更級日記 ・門出 (9)	・知識を駆使して本文を読解し、語り手の意図を考察する力を養う。	・比較的内容理解に易しい文章において、これまでに得た知識を使って、主体的に口語訳をしていくことを目指す。			
	後 期	11 (11)	和歌・俳句 ・万葉集 ・古今和歌集 ・新古今和歌集 (12)	・和歌の技法を再度説明し、歌意の理解を体感させる。			・和歌の技法を再確認し、区切れや頻出の文法事項などを理解させ、詠者の心情に迫る。
		12 (9)	名家の文章 ・雑説 ・売油翁 (10)	・知識を駆使して本文を読解し、語り手の意図を考察する力を養う。			・これまでに得た句法の知識、語彙力を使って、主体的に口語訳することを目指す。
		1 (3)	後期中間考査 (1)				
1 (3)		評論 (一) (二) ・『無名草子』 ・『去来抄』 ・『玉勝間』 (8)	・知識を駆使して本文を読解し、筆者の主張を読み取る力を養う。	・さまざまな評論を読み、筆者の主張を読み取る。			
1 (3)	逸話 ・不顧後患 ・不死の道 (4)	・知識を駆使して本文を読解し、筆者の主張を読み取る力を養う。	・逸話から読み取れる古代中国の人々の考えを鑑賞する。				